

# イネカメムシの生態と防除について

## ○イネカメムシとは

- 成虫（写真1）の体長約12～13mm、幅約5～5.5mmの大型の斑点米カメムシ類で、近年、発生量が増加しています。
- 早生品種の出穂が始まる7月上旬～中旬ごろに、越冬場所から出穂直後の水田に直接飛来します。
- 水田内で産卵（写真4）して増殖するため、8月上旬～中旬ごろになると虫数が多くなり、被害が急増する恐れがあります。
- 成虫と幼虫（写真2・3）ともに水稻の籾の基部を吸汁加害します。出穂期～乳熟期に加害されると、籾が不稔（写真5）となり、それ以降の加害では斑点米（写真6）となります。
- 夜行性で、気温が高い日中は株元の日陰に隠れているため、見つけにくいです。



（写真1）成虫



（写真2）幼虫〔3齢〕



（写真3）幼虫〔5齢〕



（写真4）卵塊



（写真5）加害による発育停止



（写真6）斑点米〔基部が黒変〕

## ○防除のポイント **殺虫剤を出穂期に散布**

- 通常、斑点米カメムシ類による不稔を防ぐための防除適期は「穂揃期（圃場全体の8～9割が出穂した日）」ですが、イネカメムシの場合は「出穂期（圃場全体の4～5割が出穂した日）」であるため、早めの散布を心がけてください。また、斑点米を防ぐための防除適期は「乳熟期（出穂期の8～12日後頃）」です。

- **発生量が多い年は、出穂期防除（1回目）のあと、7～10日後に追加防除（2回目）を行うことにより、不稔と斑点米の発生も少なくすることができると考えられます。**
- 薬剤の感受性低下を防ぐために、連用は避け、異なるIRACコードの薬剤を使用することが望ましいです。

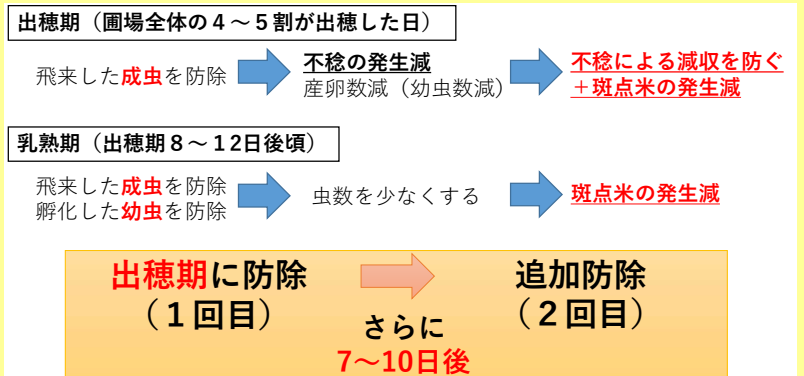


図 イネカメムシの防除適期